

5 逆引き計算と逆割り計算

「 $A-B$ 」を計算するとき、通常は、



$A \ominus B \equiv$

と打ちます。では、「 $12-2\times 3$ 」を計算するときには、どのように電卓を操作すればよいでしょうか？

「 2×3 」を先に計算することになるので、通常の計算方法だとメモをしないと計算することができません。そのようなときは、「逆引き計算」を使用します。

逆引き計算を使用することで、後から入力した数値から、前に入力した数値を引くことができます。

具体的には、



$B \ominus \ominus A \equiv$

と打ちます。先ほどの計算であれば、



$2 \otimes 3 \ominus \ominus 12 \equiv$

となります。すると、後から入力した数から、前に入力した数を逆に引くことができます。

また、同様に、 $\div \div$ と入力することで、後から入力した数値から、前に入力した数値を割ることができます。

例えば、「 $81\div (6+3)$ 」を計算する場合は、



$6 \oplus 3 \div \div 81 \equiv$

となります。

なお、この逆引き計算と逆割り計算は、後述する「じょうすう定数計算」を単独の引き算と割り算で利用したものです。「定数計算」モードになると、電卓に「**K**」が表示されます。

例題 5

次の計算を電卓を使っておこない、解を求めましょう。

(1) $8 - 2 \times 1 =$

(2) $35 - 4 \times 7 \div 2 =$

(3) $25 + 46 - 2 \times 13 =$

(4) $16 \div (12 - 8) =$



計算結果

(1) $2 \times 1 =$

$8 =$

6

(2) $4 \times 7 \div 2 =$

$35 =$

21

(3) $2 \times 13 =$

$46 =$

(20)

$+ 25 =$

45

(4) $12 - 8 \div \div$

$16 =$

4

6 定数計算

同じ数を何度も足したり割ったりすることがあります。例えば、

$$B+A=$$

$$C+A=$$

$$D+A=$$

$$E+A=$$

このような場合です。A を何度も別の数に足しています。もちろん、毎回「+A」を打ってもよいのですが、以下のように繰り返す数字が大きい場合、毎回同じ数字を打つのは時間がかかりますし、手数が増えるので誤入力の原因になります。

$$12+5,568,132=$$

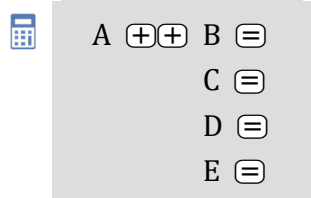
$$23+5,568,132=$$

$$34+5,568,132=$$

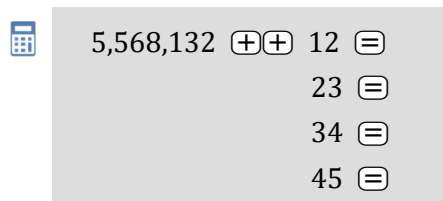
$$45+5,568,132=$$

そのようなときは、「定数計算」を使用します。繰り返し同じ計算をすることを、定数計算と言います。「定数計算」モードになると、電卓に「K」が表示されます。

具体的には、



と打ちます。先ほどの計算であれば、



となります。以上の例は足し算の場合ですが、すべての四則計算で使うことができます。定数計算では、⌵などで結果を表示させる必要があることに注意してください。

